

主要諸元：(Gターボ 2トーンルーフ仕様)

- 全長×全幅×全高/3395×1475×1665mm
- ホイールベース/2425mm
- トレッド/前:1290mm 後:1290mm
- 車両重量/860kg
- 最小回転半径/4.6m
- エンジン/658cc 直3 DOHC インタークーラーターボ
- 最高出力/64ps/6000rpm
- 最大トルク/9.7kg・m/3000rpm
- JG08モード燃費/25.0km/ℓ
- ミッション/CVT
- ブレーキ/前:Vディスク 後:リーディング・トレーリング
- タイヤサイズ/165/60R15
- 駆動方式/4WD
- 乗車定員/4名
- 車両本体価格(札幌地区)/1,376,550円(消費税込)



フロントマスクは丸目でキョートな印象だが、中身は結構へビーデューティーに作られている。軽自動車のカテゴリーではありそうで無かったクルマで、同じスズキのジムニーと共に希有な存在となるだろう。

現在売れに売れているホンダのN-BOXシリーズは見た目の分りやすさがヒットの要因の一つと言われているが、そのコンセプトでスズキが作るとこうなるという提案でもあるように思う。



最新のエコ技術 「スズキグリーンテクノロジー」

エコ性能を支えているのは「スズキグリーンテクノロジー」。「エネチャージ」「コアイドリングストップシステム」「エコクルール」「新軽量衝撃吸収ボディーECC」などによって構成されるエコ技術の総称であり、新型車

は2,425mmで全高以外はワゴンRおよび派生型の車種と共通である。エンジンも同様に、658cc直列3気筒DOHC12バルブVVTの自然吸気とインタークーラーターボの2本だ。このエンジンはNAでもとても活発で、ターボともなれば軽であることをすっかり忘れさせるほどの元気ぶりである。しかもトルクフルで使いやすい。最大トルクはターボで3,000rpm、NAで4,000rpmと、実用性を考慮した特性を持っている。

ボディバリエーションは5ドアのみ。実質的なベーシックグレードと言えそうなG/Gターボ機能充実のX/Xターボ、ターボ設定のないAという構成。各々にFFと4WDがあり、G/GターボとAには5MTも設定される。燃費は最低23.2km/ℓ(A・5MT・4WD)から最高29.2km/ℓ(G・X/CVTE)となっており、こちらも極めて優秀な数字だ。もちろん路面状況や運転方法によってCO2モードの数値とは異なる燃費になることが多いが、メーカー公表値というのは他車種との相対的な比較には多いに役立つ。今や20km/ℓオーバーの燃費も珍しくはなくなってきたがこのエンジンはEVでもHVでもない上、軽快な走行性能を考慮すると極めて優秀な数値と言える。

プロフィール

人気沸騰中の 新型軽クロスオーバー

ハスラーは「新型の軽クロスオーバー車」として昨年クリスマスイブに発表され、1月8日より発売された。基本コンセプトは「アクティブなライフスタイルに似合う軽クロスオーバー」というもので、広い室内空間と快適性、エコ性能を持ち合わせ、ラフロードにおける走破性をも備え、軽クロスオーバーという新ジャンルに挑んだ末に誕生したモデルである。プラットフォームはワゴンRと共通ながら、全てのガラス面が垂直に近いエクステリアデザインや165/60R15という大径タイヤそして180mm 4WD車は175mmの最低地上高を確保したことなどから、極めて新鮮なイメージを持つ。

昨年10月末、スズキは第43回東京モーターショーに参考出品車として世界初出展の「ワゴンRプレミオ」することを発表し、ハスラーとともに派生型のハスラークーペも出した。このあたりから人気に火が付きはじめ、クリスマスイブの発表以降は問合せも増加。今年の初売り3日から10日間でなんと、目標月間販売台数の5,000台の5倍の25,000台もの受注が舞い込むに至った。それだけハスラーには購入モチベーションを強く刺激する魅力がある証拠であらう。

軽快な走りと高いエコ性能

スリーサイズは全長3,395×全幅1,475×全高1,665mm。ホイールベース

には続々搭載されはじめてい。

中でもスズキらしいと思われるのが「エネチャージ」。減速エネルギーを蓄電する仕組みは既にお馴染みだが、そのエネルギーを電装品に供給することで、発電のために消費してきたガソリンを節約するシステムである。「電装系への供給だけで燃費がかわるのか」と考える方も多いだろうがスズキのクルマは軽またはリッタークラスである。にも関わらずナビ/オーディオ、空調、ABS/ESP(車両走行安定補助システム)、ライト類...と装備品は普通車と何ら変わらない。小さなクルマにとってそれらの負荷は相対的に大きいわけで、「エネチャージ」のメリットが際立つことになる。

インプレッション

遊び心満載！ 毎日乗りたくなる可愛いヤツ

さて、ハスラーの存在を知らなくても、TVCMやWEBサイトなどでその姿を見たことがある方であれば、おそらく「おっ」と思われたことだろう。なんといってもエクステリアが斬新だ。ボックスが2つ組み合わされただけのように見えるが丸目のヘッドライトが何とも可愛らしく、そのくせ最低地上高が確保されているので少しだけワイルドな印象も持つ。

外装カラーもオレンジ・ピンク・ブルーといったファンシー系からレッド・パールホワイトなどの定番、そしてカーキやブラウンなどの言わば「ウイデューティー系」の色までが揃う。中でもルーフトップだけ白または黒に塗るツートーンが人気らしい。オプションアクセサリーのデカール類には、昔懐かし

発売前から話題沸騰の快心作 ありそうでなかったユニークな軽クロスオーバー



SUZUKI HUSTLER

■テキスト=横山 聡史 (Lucky Wagon) ■Photo=川村 勲 (川村写真事務所) ■取材協力=スズキアリーナ札幌北 ☎(011) 721-8335



ディーラーメッセージ
スズキアリーナ札幌北
カーライフアドバイザー
榛澤 風香さん

ハスラーは、20代の女性から40代50代の男性まで幅広い方々に興味を持っています。エコ機能・安全機能が充実し、可愛らしさと遊び心が凝縮されていますので、毎日のドライブはもちろん、レジャーやショッピングなどに積極的にお使いいただけます。お求めやすい価格設定となっておりますので、是非ショールームへお立ち寄りください。

アメリカンスポーツを思わせるレーシング・ストライプやチェッカー模様などが設定されており、なんとも遊び心に満ちている。乗り込んでみると、室内にも思わずニヤリとしてしまう演出がある。例えばシート。ブラックが基本のシートは明るい色でパイピングが施され、これがなんともポップだ。さらにインパネとドアアームレストにも外装色が用いられているが、インパネもこれまたポップな質感がとてもお洒落なのである。若い方々には新鮮に映り、中年にはノスタルジーを感じさせる…そんなインテリアなのだ。そうした遊び心はスピードメーター下のマルチインフォメーションディスプレイにも盛り込まれている。イグニッションONで「HELLO」「I'm READ Y」「OFFで「SEE YOU」「ENJO Y」などと表示され、思わず微笑ましくなってしまう。タコメーターはここに表示され、視認性は高くないのだが、二つの円の中にスピードメーターとマルチインフォメーションディスプレイを収めたことで、インテリアでの大きなポイントになっている上、このクルマの遊び心も表現できていると思う。

なお普通車においてもオプション設定されるレーダーブレーキサポート（衝突被害軽減ブレーキ）がAを除くCVT全車に標準装備されていることは特筆に値する。アイドリングストップやエネチャージなど最先端のエコ性能、レーダーブレーキサポート・誤発進抑制機能・エマージェンシーストップシグナル・ESP（車両走行安定補助システム）といった安全機能が充実し、走りも軽快でキュートで可愛い…。ハスラーの大躍進は、機能がとことん煮詰められたクルマに、遊び心をたっぷり注ぎ込んだからに違いない。